

「木造軸組工法による高耐力耐力壁(木住協仕様)活用マニュアル」 正誤表(案)

2021/11/5 日本システム設計

ページ、位置等	誤	正	備考
P.2-37 12 行目 「l :主材厚」の値	(= 50 mm)	(= 150 mm)	
P.2-36 式 18	誤 $Pa = jKd \times jKm \times \min(jK_0 \times Py, jK_0 \times jKf \times Pu_0) \quad (\text{式 18})$ ここで、 Py: 単位接合部の降伏せん断耐力 Pu_0: 単位接合部の終局せん断耐力 jKd: 荷重継続期間影響係数。短期許容耐力には 2/3 を用いる jKm: 含水率影響係数。S62 建告第 1898 号に準拠する材料を用いるため 1.0 とする jK_0: 基準化係数。本接合部は常時荷重の影響がなくクリープを生じないため 1.0 とする jKf: 安全係数、2/3 とする		本規準の式を引用。但し、アンカーボルト接合部の先行降伏によって耐力壁の最大耐力が阻害されないために、接合部の降伏耐力 Py が耐力壁の最大耐力時の接合部応力以上となるように、jKd を 2/3 として表記。
	正 $Pa = (2/3) \times jKd \times jKm \times \min(jK_0 \times Py, jK_0 \times jKf \times Pu_0) \quad (\text{式 18})$ ここで、 Py: 単位接合部の降伏せん断耐力 Pu_0: 単位接合部の終局せん断耐力 jKd: 荷重継続期間影響係数。本接合部は常時荷重の影響がなくクリープを生じないため、木材のクリープ特性に基づく基準化係数 jK_0 を 1.0 とし、短期の jKd には 1.0 を用いる jKm: 含水率影響係数。S62 建告第 1898 号に準拠する材料を用いるため 1.0 とする jK_0: 基準化係数。本接合部は常時荷重の影響がなくクリープを生じないため 1.0 とする jKf: 安全係数、2/3 とする		本規準の式を引用。但し、アンカーボルト接合部の先行降伏によって耐力壁の最大耐力が阻害されないために、接合部の降伏耐力 Py が耐力壁の最大耐力時の接合部応力以上となるように、安全率 1.5 を考慮し、jKd を 1.0 に変更。なお、修正後の計算結果に変更はない。